

ダイバーシティを尊重する地域づくりと人材育成を目指して

# いちゃい場通信

No.82 September, 2021

## 国際理解・国際協力のための 高校生の主張コンクール 沖縄県地方大会

新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、2021年9月11日(土)にP' s SQUARE (浦添市)において2021年度「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール 沖縄県地方大会」を無観客で実施し、5校から6名の弁士が参加しました。

過去の自分の経験や体験を基に、「日本における持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けて、私たちが国連とできること」や「もし私が世界の問題を一つだけ解決できる立場にあったら、何を達成し、どのような世界にしたいか」など、参加者一人ひとりが白熱した弁論を繰り広げました。最優秀賞を受賞した森田さんの作品は、10月に(公財)国際連合協会主催による中央審査会(全国大会)へ出品されます。森田さんの他、中学生の作文コンテスト沖縄県地方予選の上位2作品を次のページに掲載します。

### ★結果★

最優秀賞(沖縄県国際交流・人材育成財団理事長賞)  
優秀賞(沖縄県高等学校文化連盟専門部 部長賞)  
優良賞(沖縄県人権擁護委員連合会 会長賞)  
優良賞(沖縄県ユネスコ協会 会長賞)

那覇国際高等学校2年 森田 環帆 さん  
豊見城高等学校2年 名嘉村 真乃 さん  
興南高等学校1年 平田 胡乃 さん  
八重山高等学校3年 大城 朝範 さん



公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation (OIHF)

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-2-16

TEL: 098-942-9215

FAX: 098-942-9220

HP: <https://kokusai.oihf.or.jp>

FB: <https://www.facebook.com/oihf60>



国際理解・国際協力のための

# 高校生の主張コンクール 沖縄県地方代表作品

最優秀賞

(沖縄県国際交流・人材育成財団理事長賞)

受賞作品

【日本における持続可能な開発目標（SDGs）の  
達成に向けて、私たちが国連とできること】

沖縄県立 那覇国際高等学校 2年 森田 環帆

今年の夏、2020年東京オリンピックが行われ、多くの外国人選手が日本を訪れ、日本は多くのメダルを獲得し、大きな盛り上がりを見せました。今回のオリンピックで「片膝をつく」が注目を浴びました。皆さんはこのポーズについて知っていますか。このポーズはアメリカでの黒人差別をきっかけに、人種差別に対する抗議を意味する行動のことです。女子サッカーのイギリス代表とチリ代表が試合前に行ったことで、日本のなでしこジャパンもキックオフの前にこのポーズをとりました。このように世界では多くの差別問題と戦っている人がいて、この差別問題は世界が直面している大きな課題のひとつではないかと考えます。私は以前、家族と韓国を訪れました。韓国に行く前に私が抱いていた韓国のイメージは、あまりよくなかったです。なぜなら、その当時は日韓関係が悪く、メディアで韓国人が日本人に危害を加えているニュースをみて不安になったからです。しかし、実際、韓国を訪れてみたら、優しい人だらけでした。私が迷子になったときに優しく声をかけてくれたり、電車に乗っているときに日本語で笑顔で声をかけてくれました。私が抱いていたイメージとは大きく異なっていて、その驚きは今でも忘れられないです。韓国を訪れた後、私が抱いていた韓国に対するイメージが大きく変化したと同時に私は韓国人の方に対して申し訳ないという感情が出てきました。それは、私の勝手な先入観によって、無意識的に偏見や差別をしていたことに気付いたからです。

世界には、異なった文化や意見を持った人たちが存在します。その中ですれ違いや価値観の違い、性別や年齢、障害、人種、民族、宗教などあらゆる原因から差別が生まれてしまいます。この世の中から差別をなくすためには、金子すづさんの「みんなちがってみんないい」の考え方が大切になってくると思います。人間だれしも自分と全く同じ人はいないはずで、どこかで違いがあるはずで、その違いから学ぶこと、感じ取ることがあると思います。違いを否定するのではなく認め合う気持ちが必要になります。そして、先入観でものを考えないことも大切になってきます。そのためには、相手の立場に立って考えることが大切です。簡単に見えそうですが、実際できていないことが問題です。だからこそ、思いやりの国と呼ばれている、我が国日本から積極的世界へ発信していくことが大切だと思えます。これらの考え方は、平和な世界を作ることにもつながっていくと思います。

この世界では多くの問題が起きており、そんな問題を作り出しているのは、まぎれもなく私たち人間が起こしている問題です。これらの問題は価値観や文化の違いから生まれていて、私たちの意識をかえなければ、これからも何も変わらないと思います。わたしたちができる小さなこととして、地球に興味をもって様々な問題に目を向けることだと思えます。自分たちが起こした問題だからこそ受け身に考えず、真剣に向き合い、自分の身近に考えることが平和な世界を作る第一歩だと思えます。そして、SDGsの合言葉である、「誰一人も取り残さない」を実現するには、みんな違うということが当たり前な社会を築いていくことが必要になると考えます。誰もが傷つかずに幸せだと感じられる世界を創るために自分の考えや行動を改め、未来を変えてみませんか。これからの将来を築き上げる私たちと一緒に平和な世の中を作り上げてみませんか。



最優秀賞

【日本人が国際社会の中でリーダーシップを発揮するために取り組むべきこと】

今帰仁村立今帰仁中学校 3年 浦谷 あかり

リーダーシップに関する日本・中国・アメリカ、3つの国の学生を対象にしたアンケートを国語の授業で扱った。グラフ化された結果はどれも日本が一番低く、その差も大きなものであった。ネットを検索すると同様のデータがいくつも出てきた。現在、国際社会において、日本人のリーダーとしての評価は高いとは言えない。私は日本人が国連や国際社会の中でリーダーシップを発揮するために取り組むべきことは何かについて考えてみた。劇作家の鴻上尚史さんはその著者『クールジャパン』の中で、日本人の持つ「世間」と「社会」の壁について触れている。海外経験が豊富な鴻上さんによれば、欧米には「社会」があるが、日本には「社会」の他にも「世間」というものがあるという。ここでいう「世間」とは、自分と人間関係や利害関係のある人達との関係を指し、「社会」とは、自分と人間関係も利害関係もない人たちとの関係を指す。例えば、欧米では一般的にパーティーの席で初めて会ったもの同士でも積極的に会話を交わす。一方で多くの日本人は、誰かの紹介がなければ見知らぬ人に自分から話しかけたりはしない。欧米人の多くは知らないもの同士が一から関係を築いていくことに抵抗を覚えたりしない。「社会」の中にあって、それはごく当たり前の日常的な行為だからだ。一方で「世間」の中で生きる日本人は「世間」の外にいる人たちと一から関係性を築くことに抵抗を感じてしまう。「世間」の中では皆が知り合い同士なので、自ずと互いの関係性や役職、立場など、それらに対応した呼び方や、言葉遣いが決まってくる。その様式で動けば礼を失することはない。非難される危険もない。それは安心して安定した関係とも言える。しかし、「世間」ではない国際社会では、それは通用しない。

「世間」と「社会」の区別がある日本では、「世間」の中ですでに上下関係や役割が固まっているケースが多く、その役割を超えて積極性を出すことには、抵抗感が生まれやすい。例えば、私たちが日常を過ごしている学級や部活動という場でも、級長やキャプテン、部長などが「役割としてのリーダー」に決まっている。だから「リーダー以外の役割」の者が、その枠を超えてリーダーシップを発揮することは、すくなく少ない。結果、リーダーとしての視点で考え、行動する経験を積める人の絶対数は、圧倒的に少なくなる。対して「社会」の枠で生きている欧米人には、意見を言う相手、言わない相手の垣根がない。結果、誰もが多くの意見に触れ、自分の意見を自由に述べ合う経験を積みながら学生時代を過ごすことができる。様々な年齢や場面において、誰もが立場や役割にとらわれず、「対等」な関係からスタートする経験を積むことができる。結果として、年齢、役割、立場に囚われすぎることなくリーダーシップを発揮する場面や、発揮できる土壌が生まれてくる。この差は大きいと感じる。では、どうすれば日本人も国際社会の中でリーダーシップを発揮することができるようになるのか。日本人がリーダーとして積極性を発揮できない理由は性格的なものだとと言われることが多いが、私はここまで文章をまとめてみて、その理由以前に、その消極性を生み出している「世間」と「社会」の二重構造、その間にある壁の存在を、日本人の多くが意識できていないことこそが、問題なのではないかと考えるようになった。この壁をすぐに取り除くことは難しいが、その壁の存在を意識することはできる。私たちの世代がそれを意識し、乗り越えて行く。与えられた役割の枠を超えて意見を伝え合うことを始めていく。それがリーダーシップを育てる土壌になる。その土壌に種を植え、育てていく意志をもち続けていく。一朝一夕でできることではないが、それこそが、これから私たち日本人が国連や、国際社会の中でリーダーシップを発揮していくことに繋がっていくと、私は思う。



優秀賞

【日本がリーダーシップを発揮するには】

南風原中学校 1年 宜名真 ゆい

「リーダーシップ」とは、組織や団体を導く力、統率力といった意味を持つ言葉ですが、組織や団体全体で考えたとき、一緒にいるメンバーが、同じ目標や方向を向いているという前提の上で成り立つものだと思います。つまり、日本が国際社会でリーダーシップを発揮するためには、世界全体が何に向かって力を合わせようとしているのかを知る必要があります。「知る」ためには、多くの人々の意見を聞かなければなりません。それは、力の強い者や多数派の意見だけではなく、様々な立場の人たちや多様な価値観を持つ人たちの意見も含まれます。日本は、古くから言葉の奥にある相手の意図を読み取る文化があります。発せられた言葉だけでなく、その裏側にある思いをくみ取るのです。少し前によく耳にした「忖度」もそんな日本文化を象徴するものだったのかもしれませんが、それが美德とされてきた文化なのです。しかし、海外を相手にしたときに、その文化はどのようになっているのでしょうか。私の知人に外国の方がいます。普段の何気ない会話の中でも「つまり、何がしたいの?」「はっきり言って。」というようなことをよく言われます。日本で美德とされている婉曲的表現は、海外の人からすると、はっきりものが言えない、自分の意思を持たない人という印象を与えてしまうものなのです。また、知人は「日本人は、礼儀正しく、他国の文化に対して理解があり、自分の国の利益だけでなく他国や世界全体のことについて考えることができる。世界のリーダーになることができる資質はあるのに、いつも自信なさげなのはなぜなの?」と言っていました。私は、この知人の言葉をずっと考えていました。他国のことを考えることができるほど日本は豊かな国です。国民の民度も高く、経済や教育も世界的にみて安定していると思います。では、なぜ日本は国際社会でリーダーシップを発揮できないのでしょうか。私はまず、プレゼン力不足が原因だと考えます。相手の思いをくみ取ることが美德とされた日本では、直接的な表現はあまりよいとされませんが、国際社会では、はっきりと直接的な表現で思いを伝えることが重要です。自分の考えをいかに相手にわかりやすく、納得できる説明をするかが重要な場面で、相手の判断に委ねるような表現の仕方は、意見がはっきりとわからず、曖昧な印象を受けてしまいます。私は何も日本の文化を否定するわけではありません。礼儀正しさ、公平さ、勤勉さ、寛容さといった日本人の良さを武器にして、国際社会全体のことを考える日本の姿勢を世界にわかりやすく発信すべきだと言っているのです。リーダーシップとは、リーダーだけの資質問うものではないと私は考えています。一緒にいる仲間、集団のメンバーも同じ方向を向いて考えていないと成り立たないものです。そう考えると、リーダーには、自分たちだけの私利私欲のために物事を考えるのではなく、多様な立場の人達の意見を取り入れた未来型思考で物事を捉えられることができる人材であることが重要です。

今、コロナやSDGsといった、世界全体で解決していかなければならない問題がたくさんあります。それは、一つの国だけの力だけではどうにもなりません。また、自国のことだけを考えてもいけません。世界のだれもが同じように幸せに生きられる社会を目指して行動できることが、世界が求めるリーダーシップだと私は思います。

# 新型コロナウイルス禍と災害時外国人支援セミナー

感染症対策を十分に講じた中、去る8月30日（月）にP' s SQUARE（浦添市）において、「新型コロナウイルス禍と災害時外国人支援セミナー」を開催しました。セミナーでは、OIHF職員が講師となり、県内の在住外国人の概要や、災害時とコロナ禍に共通する外国人が直面する困難に関して概説し、そのような状況の中で、「帰国支援」や「生活再建」など外国人に対してどのような支援を行うことができるのかについて参加者と考える機会を持ちました。また、大規模災害時にOIHFで活用する「多言語オンライン避難者登録フォーム」に関しては、避難所巡回等を通して被災した外国人の主訴を多言語支援センターに吸い上げ、市町村等の関係機関との連携を図ることで、外国人支援につなげていくことなどの説明が行われました。

OIHFでは、今後においても同様のセミナーを開催し、「多言語避難者登録フォーム」の認知度の向上を図るとともに、一人ひとりが災害時に外国人に寄り添うことができる体制を構築して参りたいと考えています。



セミナーの様子

## 外国人起業支援セミナー

去る9月4日（土）に沖縄産業支援センターにおいて初めての実施となる「外国人起業支援セミナー」を開催し、15名が参加しました。セミナーでは、開法律事務所の石井弁護士となせば成る法律事務所の折井弁護士の2名を招聘して実施しました。前半の講義では「会社の種類や株主総会の運営方法」、使用者として必要とされる労働基準法や労働契約法等の各種法令に関して、また後半では、「経営・管理在留資格の取得」について概要説明が行われました。専門的で、難しい内容ではありましたが、参加を通して関係法令の知識の取得に役立てていただけたら幸いです。



# 災害時外国人支援サポータースキルアップウェビナー

聖心女子大学現代教養学部日本語日本文学科教授の 岩田 一成氏を招聘し、災害時外国人支援サポーター向けに「やさしい日本語」のスキルアップを目指したウェビナーに21名が参加しました。ウェビナーでは、「〇〇大通り」の標記が“〇〇 Street”や“〇〇 Bulverde”、“〇〇 Odori”や“〇〇 St.”など不揃いのローマ字標記になっている案内板を取り上げ統一標記となっていないことや、「ローマ字=外国人にとって認識しやすい」という誤解からローマ字が乱用されていて、外国人の理解につながっていないとの興味深いエピソードからスタートし、また演習では「新型コロナウイルスワクチンの接種」を例に、接種の手順をやさしい日本語にする取り組みなども行いました。

参加者からは、「在住者の困りごとが多い「役所・学校・病院」の関係者にもっと「やさしい日本語」をしてもらうことが急務だと感じた。」「外国人には英語を使いがちだが、まずは正しい日本語を知るのも大切かと。なんとなくわかることでも説明となると難しいので、翻訳アプリを上手に活用できたらいいのかと思う。」「岩田先生の現在の海外居住を通して感じていることや体験談を聞くことで、自分の海外在住時の気持ちを思い出すことができ、日本に在住する外国人の方々の気持ちも考えやすくなった。」などの感想が寄せられました。

今後も同様のウェビナーの開催を計画し、一人でも多く「やさしい日本語」で外国人に寄り添うことができる人材の育成に努めます。



## 日本語教室参加者募集

OIHFでは、下記の2つの日本語教室参加者を募集しています

### ■ビジネス日本語 (ZOOM)

★実施日時：毎週火曜日の10時～12時

★内容：

様々なビジネスシーンに焦点をあて、履歴書の書き方や面接、職場での電子メールによる返信やビジネス文書の書き方等を学習します。

### ■個別日本語クラス (ZOOM)

★実施日時：平日7:00～19:00の間希望する日時  
(週1回40分が上限。)

★内容：

参加者のレベルに合わせて参加者が希望するトピックについて学習します。

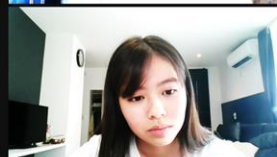


## The Second English and Cross-culture Webinar

沖縄科学技術大学院大学の研究者7名をインストラクターとして迎え、高校生から大学院生が自分の考えを論理的に英語で発信する基礎を学ぶウェビナーを去る8月14日（土）に実施し、14名が参加しました。ウェビナーでは7グループに別れ、ジェンダーギャップやLGBTQ、宇宙旅行やSDG'sの意義など、参加者一人ひとりがディスカッションしたいテーマを選んで討論しました。英語で対応する時間がとても長かったため、状況に苦慮した参加者もいたかもしれませんが、寄せられた感想をみる限り、ウェビナーを楽しんでもらえたようであり、

### ♪参加者から寄せられたフィードバック♪

- コミュニケーションをとるためには、英語ができるだけじゃなくて、知識の量をもっと増やさないといけないなというのにも身に染みて感じました。あまり知らないイランの教育のことだったり、他国のLGBTQに関することも知ることができて貴重な経験になったと思います。
- 競争社会においては英語だけ話せても意味がなく、「英語+α」で知識が大切であるとセミナー前にも聞いたが、このセミナーを通してそれを何度も実感した。OISTの方が、一つのトピックからどんどん話が膨らませ様々な観点から議論を深めており、非常に感心した。色んな知識を絡めることができるのは、情報にアンテナを張り自分の知識としてゲットしているからだに気づき、英語はツールでしかなく、今や英語だけでない時代なのだと痛感した。
- 相槌「さしすせそ」（さすが、知らなかった、すごい、センスある、そうなんだ！）を意識したり、質問に対する答えからまた話を広げたり、といったコミュニケーションの仕方も学ぶことができた。英語で会話することを目標とするのではなく、場の雰囲気大切にすることでより話をしやすくなり深めることができる。当たり前かもしれないけど、意識するだけで雰囲気が全然違ったため、日頃の会話から心掛けて習慣づけたい。



イラン出身のインストラクターとLGBTQについてディスカッションする参加者

ウガンダ出身のインストラクターと医療や宇宙についてディスカッションする参加者

## 沖縄県内国際交流団体イベント情報

### おきなわ国際協力・交流フェスティバル2021（オンライン）

#### ～SDGs沖縄発みんなの取り組み～

「SDGs（持続可能な開発目標）」をテーマに、沖縄県内の自治体や企業、団体がその活動を紹介する他、イベントの配信やフォトコンテストを行います。沖縄発の取り組みを見て、知って、繋がる、おすすめの2日間！フォトコンテストは9月中旬募集開始、詳細はJICA沖縄 HPまで！

開催日時：2021年11月20日（土）・21日（日）

開催場所：JICA沖縄 フェス特設サイト（オンライン上）

お問い合わせ：JICA沖縄 098-876-6000



# OIHF主催イベント情報

## 在住外国人から寄せられる生活上の相談事を翻訳できる人材をOIHFのサポーターとして認定します リーガル・ライフサポーター養成講座

参加  
無料

2021.12.01(水) 9:00~16:30

沖縄産業支援センター (那覇市小禄1831番地1)

認定テスト 12.11(土) @ 沖縄県国際交流・人材育成財団内

- セミナーは日本語で行われます。(各分野の知識を日本語で深めていただきます)
- 自然災害等により特別開催や開催が中止された場合、セミナーを延期・中止する場合がございます。
- 参加に際して、講師の受講と認定テストの受験が必要となります。

これらの用語を正しく理解し、在住外国人に「外国語」できちんと説明できますか？



### 対象者

ビジネスレベル以上の語学力を保有し、在住外国人支援に強い関心をお持ちの方

### 申し込み期間・方法

10月17日(日)~11月14日(日)

参加要件や応募方法等、詳しくはOIHFのHPで！

### 募集定員

30名程度



OIHF HP

主催・お問い合わせ (公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団 (OIHF)  
TEL: 098-942-9215 HP: <https://kokusai.or.jp> FB: <https://www.facebook.com/oihf60>

## リーガル・ライフサポーター 養成講座開催

参加  
無料



■内容: 「在留資格」「雇用・解雇」「離婚」「相続」等に関する基礎を学び、通訳者として知識を深め、認定テストを経てOIHFの「リーガル・ライフサポーター」として修了登録します。

■対象者: ビジネスレベル以上の語学力を保有し、在住外国人支援に強い関心をお持ちの方

■申込期間: 10月17日(日)~11月14日(日)

申し込み先着順で定員に達し次第締切

■応募方法: OIHF HPで!

■実施日時: 2021年12月1日(水)9:00~16:30

■場所: 沖縄産業支援センター(那覇市小禄1831-1)

認定テスト: 12月11日(土)

@ 沖縄県国際交流・人材育成財団内

※詳しくはOIHF HPでご確認下さい



在住外国人に対する日本語教育の重要性について考える

## 地域日本語教育ウェビナー

参加  
無料

2021.11.17(水) @ ZOOM 9:30~11:30

■自然災害等により特別開催や開催が中止された場合、ウェビナーを延期・中止する場合がございます。

趣旨 在住外国人の生活支援に資する日本語教育環境の普及と充実に向けて現状と課題を掘り下げながら理解を深めます。



対象者 県内に在住する次のいずれかの方

- 国際交流及び多文化共生施策に携わる自治体職員
- 外国人を受け入れている企業や日本語学校関係者
- 趣旨に賛同する一般の方

### 申し込み期間・方法

10月10日(日)~11月7日(日)

参加要件や応募方法等、詳しくはOIHFのHPで!

### 募集定員

30名程度



OIHF HP

主催・お問い合わせ (公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団 (OIHF)  
TEL: 098-942-9215 HP: <https://kokusai.or.jp> FB: <https://www.facebook.com/oihf60>

## 地域日本語教育ウェビナー



参加  
無料

■内容: 地域日本語教育の現状や課題、また日本語教育のリソースの活用事例等を通して、在住外国人に対する日本語教育の重要性について考えます。

■対象者: 趣旨に賛同する方ならどなたでも!

■講師: (一財)ダイバーシティ研究所  
代表理事 田村 太郎 氏

■申込期間: 10月10日(日)~11月17日(日)

申し込み先着順で定員に達し次第締切

■応募方法: OIHF HPで!

■実施日時: 2021年11月17日(水)9:30~11:30

※詳しくはOIHF HPでご確認下さい



【その他OIHF法人賛助会員様】 沖縄ハワイ協会 沖縄ツーリスト 沖縄県商工会連合会  
パシフィックホテル沖縄 沖縄市国際交流協会

# 「在住外国人の労働・生活環境向上に向けたパートナーシップ協定」を締結

厚生労働省沖縄労働局と出入国在留管理庁福岡出入国在留管理局那覇支局及びOIHFの3者間において、「在住外国人の労働・生活環境向上に向けたパートナーシップ協定」を締結しました。本協定は、沖縄県内の在住外国人の労働・生活環境の向上を図り、地域住民を構成する一員として受け入れられる環境を整備し、在住外国人労働者の適正な労働環境や雇用管理を確保するため、3者の連携を推進していきます。

また本協定を基盤としOIHFが主体となって、求人者と外国人求職者との無料職業紹介事業を展開して参ります。



右:厚生労働省沖縄労働局 福味 恵 局長  
左:出入国在留管理庁福岡出入国在留管理局那覇支局 曾我 哲也 支局長  
中央:当財団 與座 博好 理事長

## 1. 協定締結の経緯

日本国内における高齢化や人口減に伴い、人材確保が課題として取り上げられる中、沖縄県においても2025年に人口増が頭打ちとなり、人材の確保と生産性の向上を図るため、今後、業種・分野を問わず外国人材の積極的な登用が必要となると見通されています。

そのような中、外国人住民を単なる労働の担い手としてではなく、地域社会を構成する一員として受け入れていくという視点に立ち、日本人と同様に行政サービスを受容でき、また社会参画を促す「多文化共生のまちづくり」を推進していく必要があると考えています。

その一環として今般、厚生労働省沖縄労働局と出入国在留管理庁福岡出入国在留管理局那覇支局及びOIHFの3者において、本協定を締結しました。

## 2. 協定の主な内容

### ■ 外国人労働者や外国人を雇用する企業に対する労働関連法規等正しい情報の提供及び啓発

日本で就労する外国人労働者や外国人を雇用する企業を対象としたセミナーを開催し、関連法令の遵守を促進する。

### ■ 外国人の労働者や雇用者が直面する労働トラブルの把握や解決

在留資格の変更・在留期間の更新や雇用環境・労働条件等のトラブルを回避し、外国人労働者の労働・生活環境の向上を図る。

### ■ OIHFが運営するプラットフォーム「多文化共生推進アライアンス」へ賛同する産学の団体との連携を促進

就労を希望する外国人に対して、日本人と同等の機会と待遇の確保や、地域住民の一員として在住外国人を受け入れる団体を認証し、外国人労働者の能力に応じて適正な雇用を実現する。

### ■ 外国人労働者と「多文化共生推進アライアンス」に登録する団体との就職マッチング支援

OIHFが主体となり、外国人のための職業紹介支援事業を展開し、雇用主と労働者の需要の適正化に努める。

### ■ 感染症禍や大規模災害後の復興期等における在住外国人の生活再建支援

新型コロナウイルス禍や大規模災害後の復興期において、生活・労働・在留面における生活再建に向けて3者で連携して対応する。